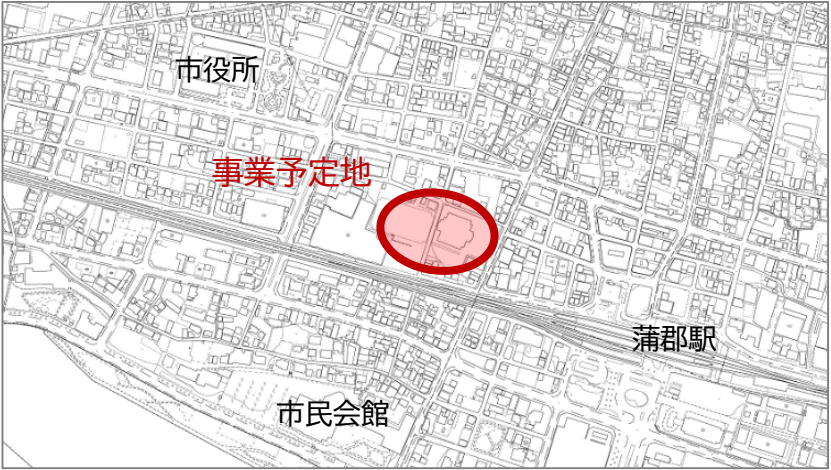


みらいキャンパスの整備に向けて（事業予定地・施設規模など）

事業予定地



本施設は、既存の市民会館や図書館の敷地ではなく、JR蒲郡駅北地区の用地（蒲郡市宝町の一部）にて整備します。この場所を事業予定地として選定した理由は次のとおりです。

- ①多世代のアクセスしやすさ・・・公共交通機関でも来館しやすい
- ②気軽に利用しやすい立地環境・・・多くの市民の通勤・通学動線にある
- ③安全性の向上・・・・・・・・・・高潮等の災害リスクが軽減される

上記は立地上の理由ですが、このエリアは政策課題上の「**中心市街地**」でもあるため、本プロジェクトが施設の充実・利用面の向上などの期待に応えることにとどまらず、『まちの活気・明るさを取り戻し、市の活性化につながる大きな契機・起爆剤にしていきたい』という市の想いを実現する事業であることも、本予定地を選定する大きな理由になっています。

施設規模のイメージ

本構想において、おおむね下記の施設構成を想定しています。
延床面積としては「**15,000㎡程度**」を目安に、基本計画で更なる検討を進めていきます。

- 図書館機能 …………… 現施設より占有面積を拡充、用途別コーナーを設置、等
- ホール機能 …………… 約1,000席のメインホール、多目的ホール、楽屋、等
- 生涯学習センター機能 …… 創作活動諸室（美術・工作等）、調理室、会議室和室、博物館よりギャラリー機能を移転、等
- その他導入機能 …… 総合受付窓口、エントランス、ワークショップスペース、子育て支援センター機能、一時預かり・託児、飲食物販 等

スケジュール・事業工程のイメージ

現在想定しているスケジュール・事業工程は、下記の通りです。ただし、様々な要因で変更が生じることがあります。なお、詳細スケジュールは基本計画策定の段階で確定する予定です。

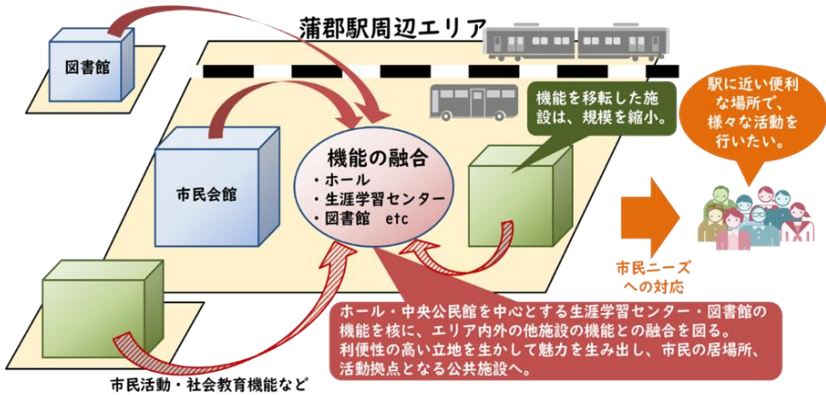
年 度	スケジュール(主な業務)
令和6(2024)年度～	基本計画等の検討・策定／事業用地の整理
令和8(2026)年度～	設計業務
令和10(2028)年度～	建設工事／運営準備 等

令和6年6月 発行：蒲郡市 編集：蒲郡市教育委員会 教育政策課
お問い合わせ：0533-66-1219(TEL) 0533-66-1184(FAX)

がまごおり「みらいキャンパス」基本構想【概要版】
～全市利用型施設 リーディングプロジェクト～

「全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト」の概要

蒲郡駅周辺エリアにおいて、令和13(2031)年度までに、
➤ ホール機能
➤ 図書館機能
➤ 生涯学習センター機能
上記の3つの機能を核とした
「**市民の居場所**」
「**活動拠点となる場**」
を形成するプロジェクトです。



市民ニーズのまとめ

①市民ワークショップ（令和4年11月／令和5年2月）

ワークショップでは、新施設への希望・想いやコンセプト等について、話し合ってきました。新施設への希望には、**長い時間滞在できる、気軽に交流できる**施設を望む声が多くみられました。また、新たな体験を通して**知識を得る**、さまざまな相談をする、日ごろの活動の**成果を発表する**ための場を望む声もありました。

【ワークショップで挙げられたコンセプト案】

- ・ ずっといたくなる空間～いつも行きたい・何度でも行きたい～
- ・ 蒲郡ならではの内と外が交流する空間
- ・ 子育てしやすく、みんなで学びあえるまち

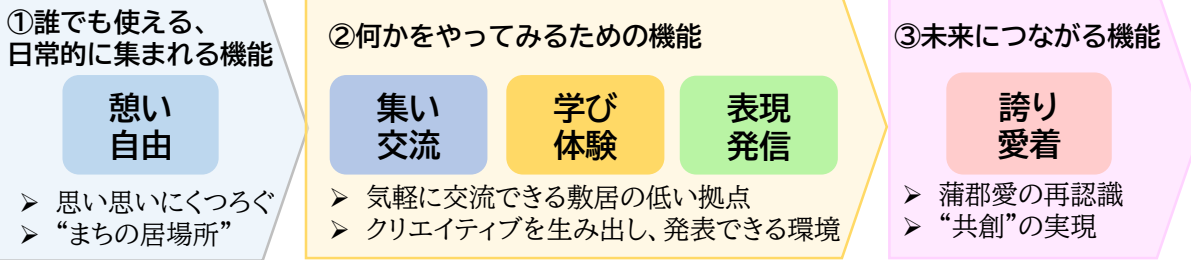


②市民アンケート（令和5年3～5月）

ワークショップ同様に、**気軽に長時間過ごせる場所**であること、**自由な使い方ができる**こと、といった回答が全世代にみられました。加えて、若い世代からは「**デジタル**を活かした効率的な利用」といった利便性を求める声、大人の世代からは「**まちの活力**につながる」、「講座等に参加できる」といった、自分やまちが得られるものがあることを求める声がありました。

また、**子育て・子ども**のための施設、**飲食施設**等を望む声もあり、蒲郡の象徴となる施設になってほしいといった意見もありました。

●市民の皆さんが望む施設像の整理(キーワード)



①誰でも使える、日常的に集まれる機能
憩い 自由
➤ 思い思いにくつろぐ
➤ “まちの居場所”

②何かをやってみるための機能
集い 交流 学び 体験 表現 発信
➤ 気軽に交流できる敷居の低い拠点
➤ クリエイティブを生み出し、発表できる環境

③未来につながる機能
誇り 愛着
➤ 蒲郡愛の再認識
➤ “共創”の実現

基本理念「共創」／施設コンセプト がまごおり「みらいキャンバス」／新施設の基本機能（施設計画の概要）

基本理念

本プロジェクトは、市の将来にも大きな影響・効果をもたらす重要な事業です。
新たな公共施設のあり方としては、**市民が気軽に集い、ふれあい、にぎわうことを
市民一人ひとりが自ら生み出し、共に創ること＝『共創』**を基本理念とし、
心豊かな暮らしの形成～ウェルビーイング～につなげることを目指します。

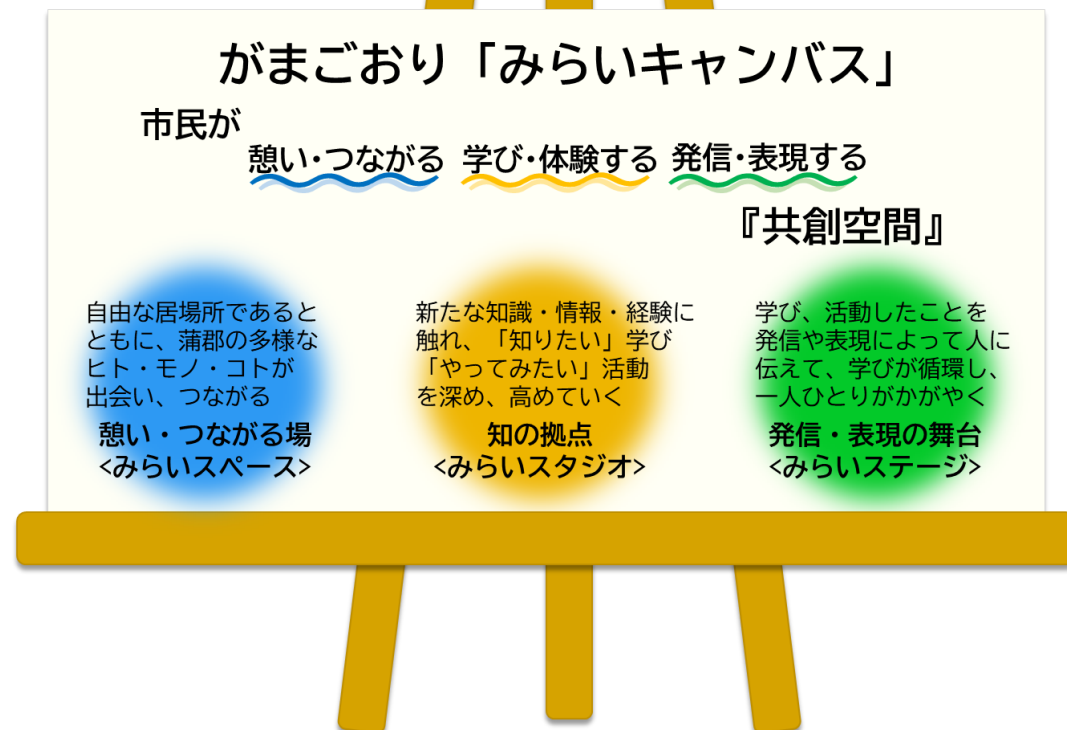
施設コンセプト

基本理念の実現に向けては、「いま」を快適または刺激的に過ごせて、さらに市民一人ひとりがここで夢を持って「みらい」を描ける施設となることが望まれます。
市民が「いま」と「みらい」の自分を自ら描く場となるこの施設を「キャンバス」に見立て、
“がまごおり「みらいキャンバス」”を施設コンセプトとします。

がまごおり「みらいキャンバス」には、次の3つの役割を設定します。
**「憩い・つながる場(みらいスペース)」・「知の拠点(みらいスタジオ)」
「発信・表現の舞台(みらいステージ)」** ※各役割の詳細は下図 参照

この3つの役割が互いに作用し**融合・循環**することで、生活をさまざまに彩り、市民
自ら新たな文化や学びを生み出す**「共創空間」**の構築を目指します。

●施設コンセプト図



学びの循環イメージ

人や情報と**出会う**→新たな学びを**知る**、活動を**育む**
→**学び**、**活動**したことを自分らしく**発信する**
→発信したことを**記録**し、新たな**学び**につなげる

新施設の基本機能（施設計画の概要）

新施設に設置する基本機能の方向性等（施設計画の概要）については下記のとおりです。なお、具体的な導入設備や規模等については、本概要に基づき、今後の基本計画で決めていきます。

施設全体	目指す方向性	誰もが心地よく憩える“サードプレイス”（自宅、学校・職場以外の居心地の良い第3の場所）
		○若者世代も訪れたい デザイン性のある魅力的な施設
		○親子の居場所となる機能の導入を検討（ 託児・遊び場 など）
		○市民が集まり、憩い、くつろぐ場にするため、 カフェや物販機能 の導入を検討
		○情報発信拠点として、 デジタル技術 の導入を促進



親子の居場所（イメージ）



図書館機能	目指す方向性	インプットされた学びを、活動を通じ発信し、アウトプットする学びもできる“みらいにつなげる知の拠点”
		○ 蔵書数の拡充 を見据えつつ、新しい資料に触れられる、 新鮮度が高い 開架図書、 ゆとりのある 開架スペース
		○一人で集中したり、グループで学習する等、 思い思いの使い方 を実現する学びの空間の提供
		○AI、ICT導入などの 図書館DXの推進
		○ 活動に沿ったテーマ配架 など、 創造的な学び の場づくり

活動と本をつなげる

ホール機能	目指す方向性	文化芸術に触れ“多様な学び・価値観に出会う場” 音楽や学びの活動を市民自ら“表現・発信する舞台”
		○未来を担う子どもたちが質の良い文化芸術に触れる機会を創出し、誰もが気軽に利用できる、 開かれたホール の構築
		○図書館や生涯学習センター等の 他機能と連携 し、様々な公演、講演会、講習会等の提供による多様な学びの実現
		○ 「音楽のまち蒲郡」 として、文化芸術活動の振興を支援し、自ら舞台に立ち、表現する市民を増やす取組を実施



開かれたホール（イメージ）



多様な活動（イメージ）

生涯学習センター機能	目指す方向性	多様な生涯学習活動の情報のハブ機能を備えた、市民同士の輪・繋がりを広める“学び・文化活動を支える場”
		○多様な学び・活動を支援するため、 様々な諸室（創作活動室・調理室など） の設置検討
		○博物館のギャラリー機能を移設し、学びや文化芸術活動の成果を発信できる 「ギャラリースペース」 を整備
		○市民の多様な生涯学習に関する学び・活動の具体化に向けた 支援・相談窓口 の設置



メインホール（イメージ）

相談窓口（イメージ）

上記の機能のほか、防災機能を考慮したり、サーキュラーシティ、ゼロカーボンシティの推進に向けた「施設づくり」への配慮など、次の基本計画の策定段階で具体的な検討を進めます。